

問い合わせ先
第二管区海上保安本部 海洋情報部
監理課長 牛島 学
電話 022-363-0111 (内線 2510)



令和 2 年 10 月 22 日
第二管区海上保安本部

釜石港の海図を全面リニューアル ～震災後からの地盤隆起による水深変化への対応～

釜石港について、これまで実施した潮汐観測及び水深測量の結果から、地盤の隆起による水深変化が確認されたため、今般、最新の測量成果を反映し海図を改訂しましたのでお知らせいたします。

改訂した釜石港の海図は、令和 2 年 10 月 23 日に発行されます。

東北地方の沿岸では、東日本大震災直後、広範囲にわたり地盤の沈降が発生し、9 年経過した今も、ゆっくりとした地盤の隆起が長期間継続しています。この影響により、港湾等の水深が浅くなっている可能性があることから、船舶の航行安全を確保するため、海上保安庁では順次水深調査を実施、水深変化等の安全情報を発信しています。

(改訂した釜石港の海図)



1. 改訂の経緯

(1) 釜石港の海図は、震災により海底状況の著しい変化が生じたことから、主要な航路、岸壁付近の水深測量成果を使用して平成 23 年 10 月に改訂、その他の区域を平成 27 年 10 月に改訂をしています。

(2) 釜石港の海図は、日本人が初めて作った近代的な海図 (1 号海図) として、明治 5 年 (1872 年) 9 月に刊行されました。釜石港の海図を刊行してから 148 年が経過していますが、今回で 12 回目のリニューアルとなります。

2. 海上保安庁では、震災の影響による地盤の変動について、航海の安全を確保するため、水深測量を継続して実施しており、今回の改訂にもこの成果が反映されています。余効変動、海上保安庁のこれまでの対応について、別添資料を参照して下さい。

3. 海図の概要

海図番号	図名	縮尺	図積	価格 [税込]	発行日
W1091	釜石港	1/10,000	1/2※	2,750 円	令和 2 年 10 月 23 日

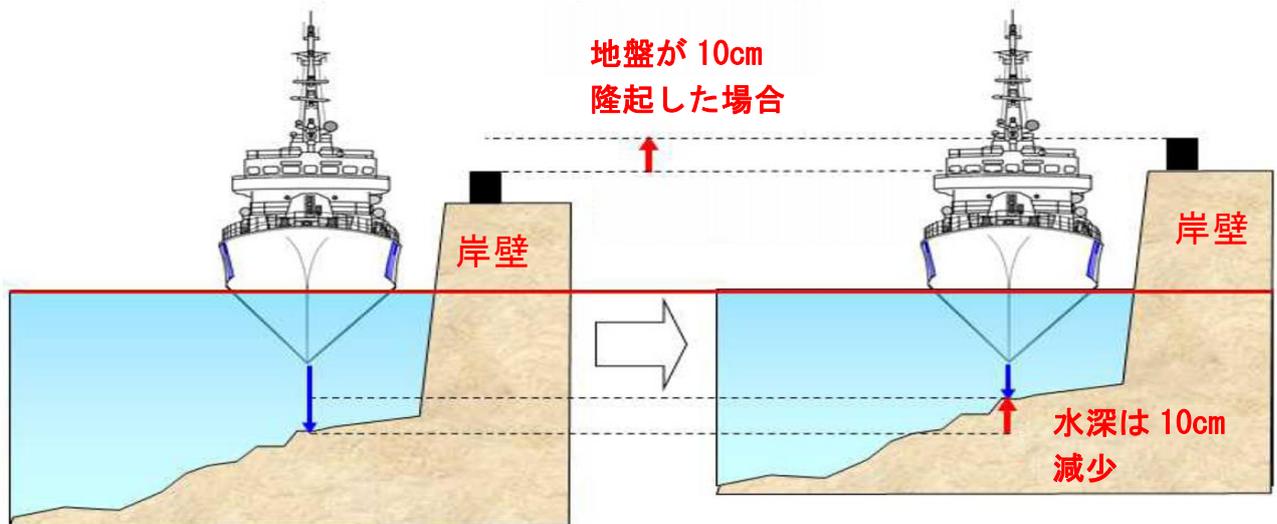
※1/2 とは、約 77cm×55cm の用紙

4. 海図は最寄りの水路図誌販売所又は取次店で購入できます。販売所等については、以下のホームページ「海図の購入方法 (水路図誌販売所)」や当庁刊行の水路図誌目録をご覧ください。

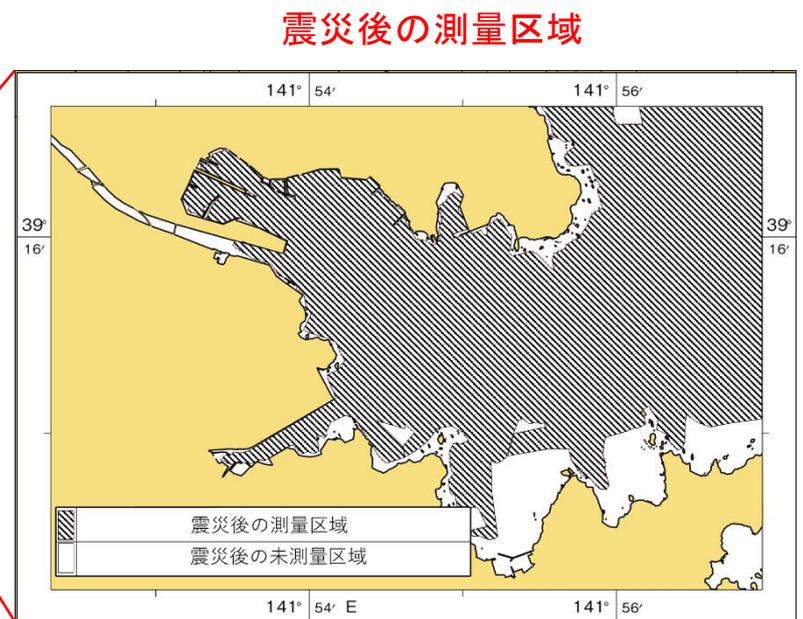
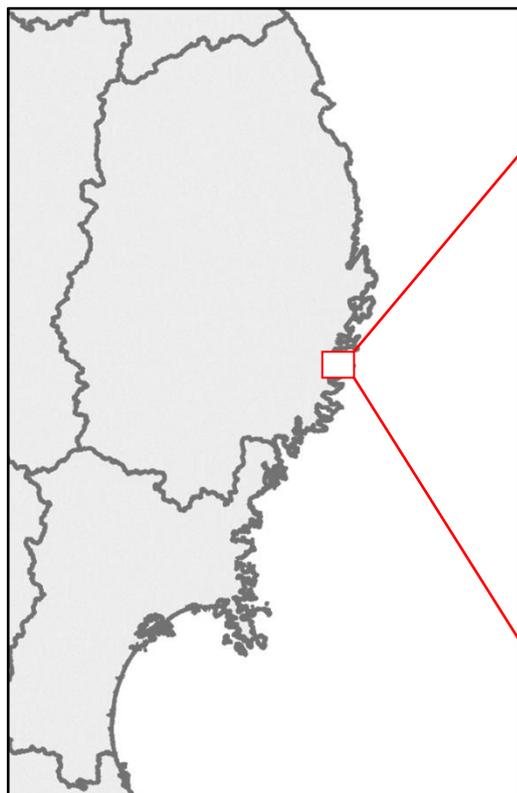
ホームページ (海図の購入方法)

<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOKAI/ZUSHI3/default.htm>

○地盤隆起に伴う港の水深変化イメージ図



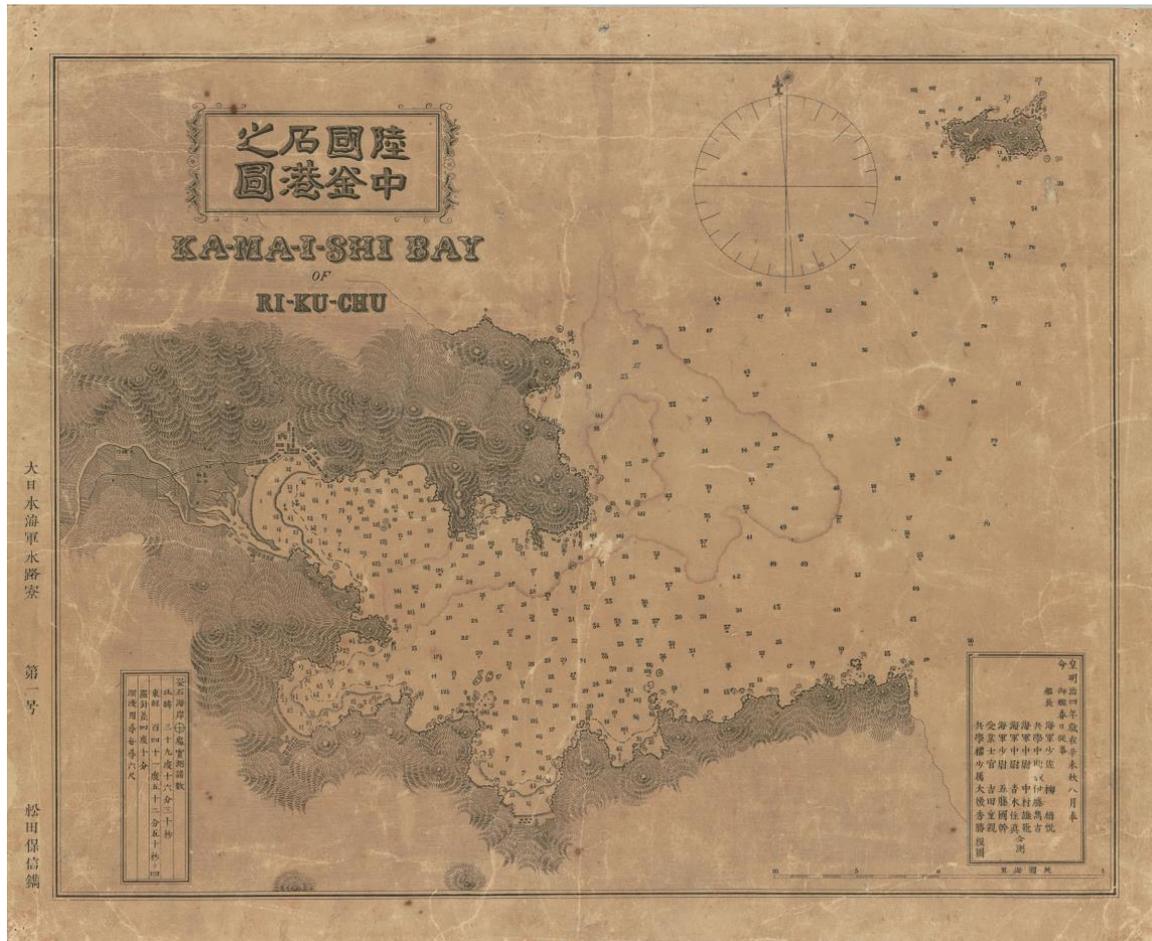
○海図の範囲及び震災後の測量区域



※測量区域は斜線部

未測量区域は、養殖いかだ等が存在したり浅所のため調査できなかった区域

○1号海図：陸中國釜石港之圖（明治5年(1872年)9月刊行）



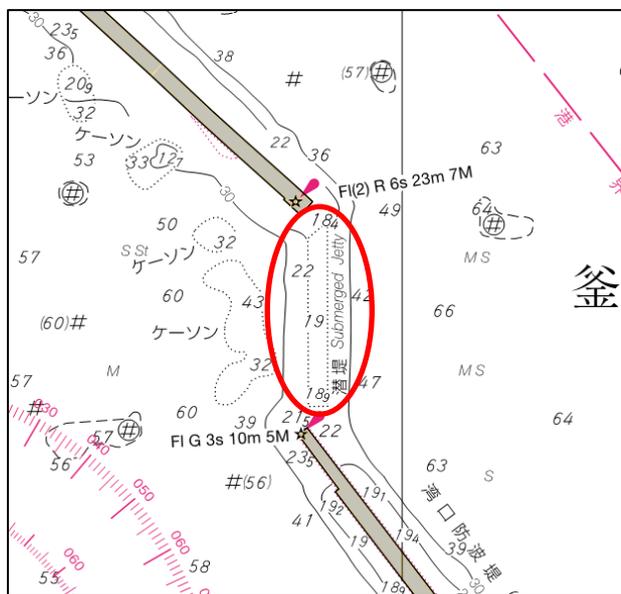
○釜石港海図の改版履歴

	海図番号	刊行年月		海図番号	刊行年月
1	1	明治5年9月	7	1091	昭和59年4月
2	1	明治15年10月	8	W1091	平成13年11月
3	54	明治37年11月	9	W1091	平成16年1月
4	71	大正14年5月	10	W1091	平成23年10月
5	6613	昭和24年10月	11	W1091	平成27年10月
6	1091	昭和27年8月	12	W1091	令和2年10月

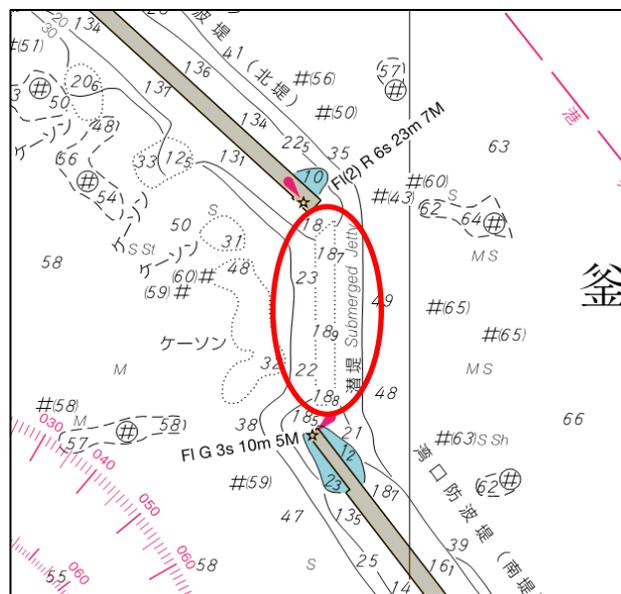
改訂前後の主な変化

○湾口防波堤付近（地盤の隆起状況や最新の測量結果反映）

改訂前 潜提の最浅水深 18.9m

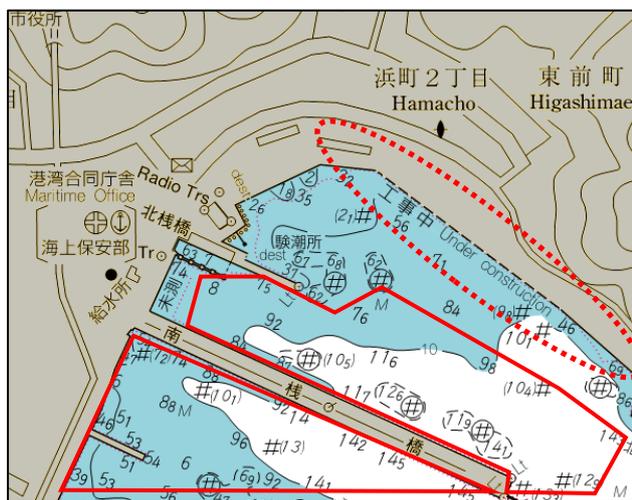


改訂後 潜提の最浅水深 18.7m

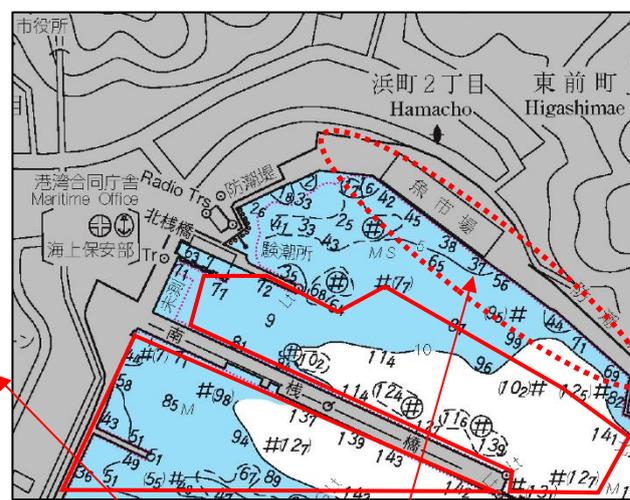


○魚市場付近（魚市場完成、地盤の隆起状況を反映）

改訂前



改定後



□ で囲まれた水深が 0.2~0.3m 減少

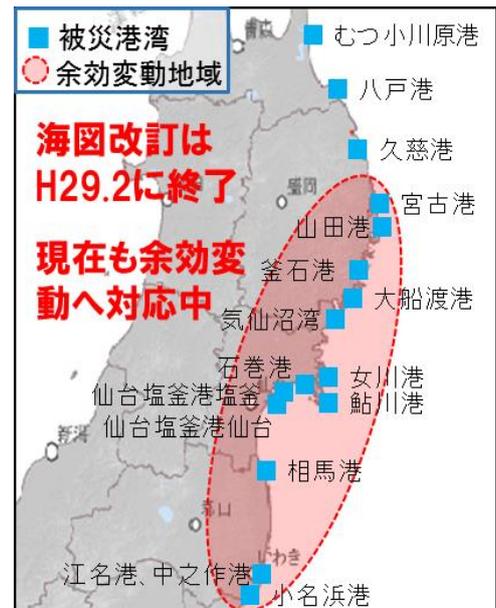
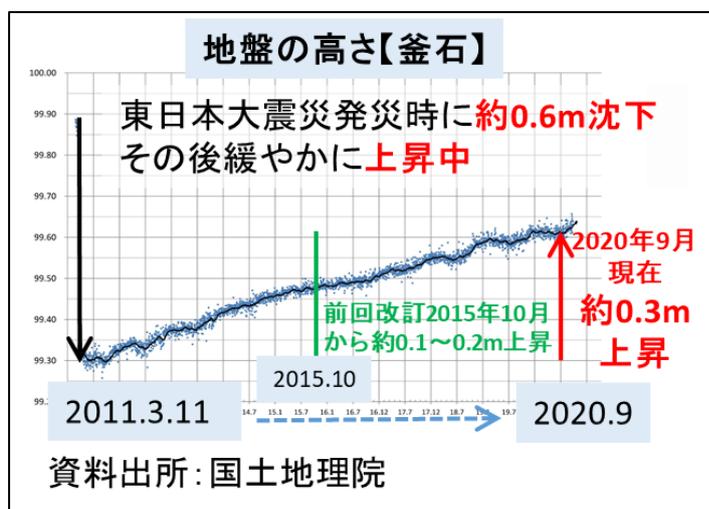
魚市場が完成

※他の水深は地盤の隆起だけではなく工事・障害物撤去や土砂堆積等を含めた変化と思われる。最新の測量結果を反映した。

現在も継続する余効変動（地盤隆起）への対応

地盤の変動状況

- ① 下のグラフのように、震災後、地盤の高さが急激に沈降し、ゆっくり隆起する変動(余効変動)が岩手県～福島県沿岸（下図の赤の点線で囲んだ区域）で継続しています。
- ② 地盤が隆起すると海図水深が浅くなることから、船舶航行の安全への影響があるので、海上保安庁では平成 25 年から継続的な地殻変動の監視を行い、水深への影響が認められる変動があれば必要な測量調査を行って調査結果を海図へ反映させています。



余効変動（地盤隆起）への対応状況

海上保安庁では、震災後から平成 29 年 2 月まで被災港湾の再測量、海図改訂を終了し、その後、余効変動で水深が大きく変化した港の海図改訂等を順次実施しています。下表は、余効変動による水深変化へのこれまでの対応（海図改訂）です。

平成 25 年 9 月	石巻港
平成 25 年 11 月	仙台塩釜港塩釜区
平成 25 年 11 月	仙台塩釜港仙台区
平成 30 年 6 月	相馬港
平成 30 年 8 月	石巻港
平成 30 年 9 月	仙台塩釜港塩釜区
平成 30 年 9 月	仙台塩釜港仙台区
令和 2 年 4 月	大船渡港
令和 2 年 10 月	釜石港

震災の影響による水深の変化は今後も続くとみられ、海上保安庁はこのような対応を継続して取組んでいきます。